

第2次草津市協働のまちづくり推進計画の令和2年度の取組に係る評価および令和3年度の取組予定

推進項目	A. 市民公益活動団体等の交流促進事業の展開		
目標【当該推進項目の推進による協働のまちづくり推進への効果等】		【R2の実施内容】	【R3以降の取組（予定）】
<p>団体同士がつながることにより、地域の課題や周囲の方が抱える困りごとを共有することができます。また、新たな視点からの意見を取り入れることで、既存の団体に新たな考えが生まれ、活動が活気づくことが期待されます。多様な団体が関わるためのきっかけづくりの事業展開を行う等、相乗効果を高めるための機会を提供します。また、中間支援組織同士が連携し、より幅広い団体を対象とした交流促進事業を展開することでより大きな効果が期待されます。</p>		<p>コロナ禍の中で、大人数で集まり交流するイベントの開催が難しい中、工夫しながら市民公益活動団体等の交流を促進しました。また、コロナ禍だからこそ学びたい内容の事業を検討し開催することができました。</p>	<p>コロナ禍でも、団体同士が交流できるよう感染対策を行いながら、形式を工夫し開催します。</p>

実施項目		効果に対する評価		
市民公益活動団体の交流の場の提供		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
まちづくりセンター登録団体による運営協議会の活動をコロナ感染拡大防止対策をとった上で実施。視察研修や交流研修会、活動紹介ポスターの製作など団体間の交流と学びの機会をつくった。キラリエ移転に伴い、最終となる「まちセン周年イベント」は準備を進めていたものの、コロナ禍のため中止とし、手づくり記念品とメッセージ集の製作・配布で代替。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
<p>令和2年度 実績</p> <p>・まちづくりセンター運営協議会事業 (131千円)</p> <p>(決算額： 131 千円)</p>		<p>令和3年度 予定</p> <p>(予算額： 千円)</p>	<p>新しいまちづくり拠点であるキラリエに複数の団体が入居したことから、より効果的な交流の場の創出が可能となった。また、これまで交流の場としてイベント型の事業になりがちであったが、より交流と協働を促すための交流の形についても検討が必要。</p>	<p>協働ひろば(キラリエ5F)でのラウンドテーブルの運営に中間支援組織として積極的に関わり、市民活動団体への事業認知を高める。</p>
				協働ひろばでのラウンドテーブルの実施と定着化を中間支援組織としてサポート
				担当
				コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価		
地域サロン交流会の実施		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
地域住民が楽しく、いきいきとした地域サロン活動を行うことが重要であり、社会的なつながりを保つことが大切である。高齢者が社会的孤立の状態に陥らないよう、少しでも外出できる環境を整え、健幸な生活を送っていただくための交流会を開催する。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
<p>令和2年度 実績</p> <p>・参加29サロン49人 (男性：3人 女性：46人)</p> <p>(決算額：56,246円)</p>		<p>令和3年度 予定</p> <p>・交流会の開催 (予算額：170,000円)</p>	<p>これからも続くマスク着用社会のなかで、「マスクを持ち運ぶケース」「食事などをする際に保管するケース」など「クリアファイルで作るマスクケース講座」で作り方を学び、地域サロン活動メニューとして活用していただき、高齢者の新しい生活習慣となりえる交流会とした。</p>	<p>交流会に参加するサロンや参加する人が固定化傾向にある。</p> <p>呼びかけ方法や企画内容等、地域サロン活動のメニューを検討し、充実させていく。</p>
				コロナ禍でも新しい生活様式でサロン活動を継続・充実させていけるように、地域サロンに紹介できるアイテムを増やしていく。
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
ボランティアフェスティバルの実施		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
<p>中間支援組織連携として、草津市社協と草津市コミュニティ事業団、草津青年会議所の三者で「緑波祭」を令和元年に開催したところ、多くの市民の参加につながり、多様な団体が開わるためのきっかけづくりや、また、それぞれの団体同士の交流にもつながったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止せざるを得なかった。しかし、草津市福祉教養大学大学院生の活動の第一歩として、「あなたのための音楽祭」を企画し、実施したことで、ボランティアフェスティバルの主旨であるボランティア活動者同士をはじめとした参加者のつながりづくりができた。</p>	工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	ボランティアフェスティバルでお世話になった方々に、しっかりとお礼を伝えることができる気持ちのこもった交流会となるような内容を検討する。
	<p>コロナ禍における実践活動の場として、ボランティア活動の充実と住民参加のつながりをつくる場とした。</p>	<p>多くの市民を巻き込んだのボランティアフェスティバルの開催は難しいが、令和4年度については連携事業について検討する。</p>	<p>10回目のボランティアフェスティバルとしてはファイナルとし、過去に関わっていただいた方をお呼びし、交流会を実施予定。 今後も応援してもらえよう、つながりを絶やさないように努める。</p>	
令和2年度 実績	令和3年度 予定			担当
<p>・音楽ボランティアグループ6団体による演奏会 参加者：午前16組26人 午後5組12人 (決算額：192,793円)</p>	<p>・ボランティアフェスティバルファイナル交流会の実施 (予算額：315,000円)</p>			社会福祉協議会

評価	新たに生じた課題や特に留意すべき状況の変化等
B	

第2次草津市協働のまちづくり推進計画の令和2年度の取組に係る評価および令和3年度の取組予定

推進項目	B. まちづくり情報の収集・発信		
	目標【当該推進項目の推進による協働のまちづくり推進への効果等】	【R2の実施内容】	【R3以降の取組（予定）】
	情報を収集することで、中間支援組織が、幅広い団体を知ることができ、団体間のコーディネートや団体同士の交流の促進にもつながります。 また、様々な広報媒体を利用して、まちづくり情報を収集・発信することで、市民公益活動団体の活動を活性化させることができ、協働のまちづくりの推進につながります。	例年のまちづくり情報紙等の発行に加え、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業が延期・中止になる中で、できるだけ早く、HPにて市民の方へ情報を発信することができました。	引き続きホームページ、フェイスブックなどでの情報発信に加え、移転先の複合施設を活用し、工夫した周知方法により情報発信を行います。

実施項目		効果に対する評価		
ホームページ、SNS、ラジオ等を活用した情報の発信		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
活動に必要なスキルやそれらを取得できる事業の案内、参考となる他の活動など、市民公益活動の活性化や協働のまちづくりの推進につながる情報をHPやSNS等で適宜発信した。また、草津のコミュニティFMにまちづくり活動団体のための番組を制作し、随時、団体に出演いただき、まちづくり活動団体が情報発信できる新たな媒体を提供した。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績		令和3年度 予定		サイトの再構築では、まち協や町内会などの団体も視点に入れた総合的なまちづくりサイトを検討。
<ul style="list-style-type: none"> <li>HP保守管理等 (359千円)</li> <li>コミュニティFM番組制作 (2,043千円)</li> <li>SNS (0円)</li> </ul> (決算額：2,402千円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>HP保守管理等 (671千円)</li> <li>コミュニティFM番組制作 (2,014千円)</li> <li>SNS (0円)</li> </ul> (予算額：2,685千円)		
		FMへの出演団体の選定については、団体の催しのタイミングや季節柄も考慮して選定し、人の行動へつながるよう工夫した。また、情報誌など他のメディアと複合的に発信し、情報の補完や相乗効果を図った。	HPについては、これまでの経過の中で複数のサイト使用となったり、構成も複雑化し、利用者にとって情報を見つけにくい状況となっている。また、発信者もタイムリーかつ適切なカテゴリで発信しにくい状況となっている。	複数のサイトを統合整理するリニューアルを行う。
				担当
				コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価		
まちづくり情報誌の発行		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
市内の特色あるまちづくり情報を取材活動を通じて発信する情報誌「コミュニティくさつ」を全戸配布で発行。掲載活動を通じ広く市民に草津の魅力や課題を伝えと共に、ボランティア参加や潜在的な活動対象者とのつながりなど、掲載活動自体の周知やすそ野拡大につながるよう努めた。毎号、100件近くの反応をいただき、取材対象者に還元。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績		令和3年度 予定		地域版の発行と地域での認知。次年度以降の掲載地域の決定。
<ul style="list-style-type: none"> <li>「コミュニティくさつ」発行 (3,146千円)</li> </ul> (決算額：3,146千円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>「コミュニティくさつ」発行 (2,518千円)</li> </ul> (予算額：2,518千円)		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>年間4回(6・9・12・3月)の発行を予定していたが、配布協力いただく町内会等の感染拡大防止のため、6月号の発行を見送った。</li> <li>読者市民の関心事を誌面に活かすため、プレゼントコーナーをつくり読者の反応を調査している。</li> </ul>	全戸配布のため、配布協力いただく町内会の負担をどのように軽減するか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行回数を半減(年2回)</li> <li>頁数の減(12P→8P)</li> <li>紙質の仕様変更(軽減)</li> <li>新たに地域版情報誌の発行</li> </ul>
				担当
				コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価		
市民公益活動団体情報冊子の発行		2 (取組を行ったものの、思うほどの成果は得られなかった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
中間支援組織として必要な市民活動団体情報の把握に加え、団体間のつながりづくりボランティア参加の促進などを目的に、団体アンケート調査を行い、得られた基礎情報を冊子とHPにて発信した。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	市教育委員会などの協力を得ながら、調査対象を社会教育関係団体まで広げ、情報の充実をはかった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPにも併せて掲載することから、冊子として発行する必要性が薄らいできている。</li> <li>情報更新がない団体の中には、活動の実態が伴わない団体がある可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冊子としての発行は今年度を最終年とすることで調整（調査およびHP発信は継続）</li> <li>調査回答のない団体は電話または現地訪問にて活動実態を把握</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動団体情報「つながりのめ」発行 (165千円)</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul> (決算額：165千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動団体情報「つながりのめ」発行 (239千円)</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul> (予算額：239千円)			
				担当
				コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価		
社協ホームページによる情報発信		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
ホームページによる情報を発信することによって、若い世代への周知・啓発に効果がある。身近な地域への情報や気軽に参加できるボランティア・地域活動など、広報紙には載り切れない細やかな情報を得ることが出来、幅広く周知参加を促せると期待する。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	ホームページの更新やトピックス枠にて、フードバンクや寄附金等の最新情報を発信し、募集啓発と実績の報告に努めた。また、学区社協事業や地域サロン等の取り組みの様子をトピックス枠で随時紹介することで、地域で取り組まれている活動を広く住民に周知・啓発した。	ホームページを、市民が知りたい情報にすぐ繋がるよう見やすく、分かりやすくする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の地域福祉活動の取り組み紹介を動画を組み込むことで、よりイメージが湧きやすく、分かりやすく伝えるようにする。</li> <li>アクセス者が知りたい情報ページにすぐつながるように、アイコンや事業内容の表現を工夫する。</li> <li>ボランティア活動団体や地域サロン活動についても随時紹介できるように、職員が地域に出向き、情報の収集とリアルタイムでいち早い発信を行う。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ運営事業</li> <li>アクセス数 64,062件</li> </ul> (決算額：324,500円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ運営事業</li> </ul> (予算額：292,000円)			
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
社協くさつの発行		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
広報紙の発行によって、住民に有用な情報を発信することにより、地域の活動の周知や講座等への参加を促すことができる。また、様々な悩みを抱えた人や生活に困窮している人に向けて相談の受け付けや食料支援等の発信ができ、支援につながるができる。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績		令和3年度 予定		
・年4回発行(7/1号、9/15号、11/1号、3/15号)  (決算額: 2,096,242円)	・年4回発行(7/1号(回覧)、9/1号、11/1号、3/1号)  (予算額: 3,039,000円)	コロナ禍でも工夫して活動しているボランティア活動団体の取材をし、ボランティア活動を頑張っている姿に焦点をあて掲載したほか、学区・区社会福祉協議会の活動や活動者の思いを聞き取り掲載し、コロナ禍であっても頑張って活動されている取り組みや思いを広く住民に知ってもらおうよう紙面を工夫した。	誰が見ても分かりやすく、興味をもてる工夫を凝らした紙面づくりが必要である。	・市内14学区のマップ表記を取り入れて地域の取り組みを紹介したり、活動者のインタビューを多く取り入れるなど、地域活動の見せ方を工夫する。 ・移住者や若い世代にも分かりやすい表現で紙面を作成する。そのためには、若い世代や活動者などに広報紙に対する意見を聞き、反映させる。
				誰が見ても分かりやすく、興味をもてる工夫を凝らした紙面づくりに努める。
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
ボランティアグループ・地域サロンリストの発行		2(取組を行ったものの、思うほどの成果は得られなかった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
ボランティア・地域サロングループリスト、出前ボランティア一覧を作成することで、ボランティア活動団体の紹介や活動場所の拡大が期待できるほか、地域サロン参加者の増加による活動の活性化につながる。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績		令和3年度 予定		
・ボランティア・地域サロングループリスト 126部作成 ・出前ボランティア一覧 320部作成  (決算額: 3,750円)	・ボランティア・地域サロングループリスト作成 ・出前ボランティア一覧作成  (予算額: 36,000円)	・ボランティア・地域サロングループリストは、グループリスト欄の活動項目を50音順に表示し、また、地域サロンリスト欄については学区ごとに表示して検索しやすいように掲載した。 ・出前ボランティア一覧については、依頼する場合の条件を表示して明確にすることで、ミスマッチングが防げるようにした。	リストの発行時期が毎年9月となっている。	住民の手元に早くリストが届けるよう、できるだけ早い時期の発行に努める。
				住民の手元に早くリストが届けられるよう、できるだけ早い時期の発行に努める。
				担当
				社会福祉協議会

評価	新たに生じた課題や特に留意すべき状況の変化等
C	

第2次草津市協働のまちづくり推進計画の令和2年度の取組に係る評価および令和3年度の取組予定

推進項目	C. 相談・コンサルティングの実施		
目標【当該推進項目の推進による協働のまちづくり推進への効果等】	【R2の実施内容】	【R3以降の取組（予定）】	
<p>団体が日頃活動する中で抱える課題を認識し、さらなる協働のまちづくりの展開を図るため団体の活動が活性化されるよう支援することが重要です。相談を受けることで、団体が行う活動の社会的意義を理解し、その専門性、柔軟性等を活かし、既存の取組の拡充だけではなく、他の団体との新たな取組の提案を行うことができます。</p> <p>また、団体からの相談の対応やコンサルティングを行うためには、協働の専門性を有した職員の育成も必要となります。先進事例の研究や他市施設の視察等を積極的に行うことで、相談内容の幅が広がるだけでなく、支援制度の見直しや設計、事業展開の拡充が期待されます。</p>	<p>団体からの相談に対応する職員自身の知識・技量の向上のため、各種研修に積極的に参加しました。また、コロナ禍の中でもできる活動を検討し、実施しました。</p>	<p>関係主体と連携を図りながら、団体が抱える課題やニーズの把握に努め、解決に向けた取組を検討します。</p>	

実施項目		効果に対する評価		
まちづくりの活動相談とコーディネート		3（計画通りの取組により、成果があった。）		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
市内の市民公益活動団体やボランティア希望者などからの「団体や人の紹介」「活動取組・事業企画」「団体運営・会計」「活動資金の確保」など、多様なまちづくり相談に対応し、必要に応じて他団体や専門機関等へのコーディネートを行っている。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談対応カードに記録し回覧と保管（継続的相談対応／職員間共有／中間支援力向上）</li> <li>中間支援力向上のため、職場研修を積極的に実施、外部研修にも積極参加</li> <li>県内の中間支援センター意見交換会に加入</li> </ul>	多様な分野の相談に対応するための職員の知識・技量の向上	引き続き、内部・外部の研修を実施参加するとともに、職場ミーティングでもケーススタディなどで職員間で情報共有と意見交換
・外部研修参加費（34千円）  （決算額： 34 千円）	・相談・コンサルティング業務（138千円）  （予算額： 138 千円）			

実施項目		効果に対する評価		
地域のまちづくりに関する支援（地域まちづくり計画、活動相談等）		3（計画通りの取組により、成果があった。）		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
地域まちづくり協議会等の組織や事業運営、情報発信などのまちづくり相談に対応し、必要に応じて専門家とのコーディネートを行った。また、依頼のあった地域まち協に対し、地域まちづくり計画の策定サポートや講師派遣などを行った。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	相談の多くを占める会計や労務に関しては昨年度に作成したQ&Aサイトに相談内容を追加し、地域まち協が自ら対応できるよう環境の整備を図った。	地域まち協支援に関しては専門性や固有事情の配慮などが必要で、支援が特定の職員に偏りがちとなる。	職場ミーティング等で職員間の情報共有を図る。
（決算額： 0 千円）	・相談・コンサルティング業務（138千円） 【再掲】 （予算額： 138 千円）			

実施項目		効果に対する評価		
地域福祉活動推進の支援（医療福祉を考える会議を中心とする課題共有とコーディネート）		3（計画通りの取組により、成果があった。）		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
<p>・地域福祉活動（学区社協）支援 地域福祉活動を推進していくために、学区担当制を敷き、学区社協とともに各学区の地域課題を把握し、課題解決へ向けた地域福祉活動の推進を図る。また、研修会等を通し、職員が地域福祉コーディネーターとしての資質の向上に努める。</p> <p>・草津市地域福祉活動計画策定委員会 平成29年に策定した第3次草津市地域福祉活動計画について、計画の進捗状況や、新たな課題・目標・工夫等について年3回本委員会にて検討を行っている。いただいた意見を参考に、知己活動のPRを積極的に行ったり、より地域に根ざした支援が行えるように努める。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
		地域福祉活動（学区社協）支援として、コロナ禍の中でもできる活動を学区社協とともに考え、地域福祉活動の推進を図った。 また、策定委員会において、地域福祉活動や市社協活動の見える化により力をいれるべきとご意見をいただいていたこともあり、学区社協の活動や市社協活動について広く周知・啓発していくため、ホームページや広報紙、記者の取材を受けるなど、より積極的に活用した。	・地域福祉活動（学区社協）支援は、地域の課題を深く把握し、地域の特徴にあった活動支援をしていく必要がある。 ・地域住民だけで地域福祉活動をするのではなく、地域にある企業・福祉事業所・学校など様々な団体と地域住民との絆を紡ぎ、地域全体で活動していくような仕組みづくりが必要である。	・地域福祉活動（学区社協）支援 地域課題を正確に把握していくため、学区社協と密な連携をとり、活動推進に向けて支援をしていく。 ・策定委員会 令和3年度は計画を見直し、第4次計画を新たにつくる年度であるため、学区社協だけでなく、地域福祉活動を行っている各種団体・組織にアンケート調査を行い、地域や市社協等と連携できる事柄がないか等、実態やニーズを捉え、地域とつながるきっかけ等を探っていく。
令和2年度 実績	令和3年度 予定			
<p>・地域福祉活動（学区社協）支援、担当職員配置（33,173,060円） 学区社協活動支援回数（医療福祉を考える会議への支援含む） 884回 ・策定委員会（198,000円）</p> <p>（決算額：33,371,060円）</p>	<p>・地域福祉活動（学区社協）支援、担当職員配置 （44,547,000円） ・策定委員会（1,401,000円）</p> <p>（予算額：45,948,000円）</p>			
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価			
ボランティア活動の相談とコーディネート		3(計画通りの取組により、成果があった。)			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
地域で活躍されているボランティアグループや個人ボランティアへの相談に応じ、ボランティア活動の活性化を図り、ボランティアの支援を必要とされている方とセンター登録されているボランティア活動者・団体との間で需給調整を行う。 また、コロナ禍の中でも感染防止対策に取り組みながら、誰でも身近に安心してボランティア活動が行えるよう活動の支援を行う。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整、電話訪問事業</li> <li>・ボランティア需給調整、電話訪問事業</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整 活動者の声に耳を傾け、情報の共有を図るとともに、活動状況の把握と、ボランティア依頼者と活動者をつなげる取り組みを行った。</li> <li>・フードバンク事業 普段、生鮮食品は受け付けていないが、コロナ禍で行き場のなくなった多くの食品がフードロスになる前に迅速に対応したことで、必要とされる福祉関係施設に配分ができた。</li> <li>また、より多くの住民にフードバンク事業について知っていただくために、住民にとって身近なまちづくりセンターや市役所に寄附BOXを設置し、移動フードドライブを実施した。</li> <li>・福祉車両貸出事業 貸出の際の所得制限をはずし、利用者の拡大を図った。</li> <li>・電話訪問事業 多くの事業がコロナ禍で中止せざるを得ない中、一度も止まらずに一人暮らしの高齢者や昼間独居高齢者に対し、孤立・孤独に陥らないよう傾聴ボランティアが電話訪問した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整 活動の場の提供、モチベーションアップが課題である。</li> <li>・フードバンク事業 事業のより活発な周知・啓発が課題である。</li> <li>・福祉車両貸出事業 送迎ボランティアの増員が課題である。</li> <li>・電話訪問事業 運転免許の返納のため、活動場所である市社協まで来ることが難しくなるなどボランティア活動者の高齢化が見られ、より多くのボランティア活動者の増員が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整 活動の場や情報提供を行う。</li> <li>・フードバンク事業 各学区まちづくりセンターに移動フードドライブを設置してもらえるように学区社協に呼びかけ、より多くの箇所を設置できるよう取り組む。</li> <li>・福祉車両貸出事業 社協くさつやホームページで送迎ボランティアの募集案内をしたり、ボランティア活動を希望しに相談に来られた方に対して送迎ボランティア募集について案内する。</li> <li>○電話訪問事業 傾聴講座をするなど、社協広報回覧版で周知・啓発し、ボランティアの拡大を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整、電話訪問事業</li> <li>・ボランティア需給調整、電話訪問事業</li> </ul>
令和2年度 実績	令和3年度 予定				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整 50件</li> <li>・フードバンク事業 (119,196円) 寄附数 お米1,422kg お米以外2,341品</li> <li>・福祉車両貸出事業 192件 (626,897円)</li> <li>・電話訪問事業 227回 傾聴ボランティア連絡会の開催 10回 (50,769円)</li> </ul> <p>(決算額：796,862円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア需給調整</li> <li>・フードバンク事業 (148,000円) 春夏秋冬フードドライブ実施予定 移動フードドライブ6カ所実施予定</li> <li>・福祉車両貸出事業 (1,430,000円)</li> <li>・電話訪問事業 (141,000円) 傾聴講座の開催</li> </ul> <p>(予算額：1,719,000円)</p>				
				担当	
				社会福祉協議会	



実施項目		効果に対する評価				
地域サロン活動支援員によるコーディネート		3(計画通りの取組により、成果があった。)				
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標		
地域サロン活動を通して、高齢者の見守り活動を推進し、身近な場所で支え合う関係づくりを目的として、高齢者の介護予防と自立を促進するためにサロン活動の拡充に努める。また、新型コロナウイルス感染症拡大のため、地域サロン支援事業の「とく・得バスツアー」が中止せざるを得なくなり、高齢者の外出の機会が失われ、孤立化が懸念されたが、「素敵なまごころ便」を実施することで、地域サロンと参加者のつながりをつくることができた。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	地域サロン活動の立ち上がり支援や「まごころ便」の実施をすすめる。	
令和2年度 実績		令和3年度 予定		担当		
<ul style="list-style-type: none"> <li>新たに設置された地域サロン 5サロン</li> <li>運営相談ならびに情報提供 178件</li> <li>地域サロンとボランティア活動者・団体の需給調整 7件</li> <li>地域サロン数 158サロン</li> </ul> (決算額：9,416,391円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>運営相談ならびに情報提供</li> <li>地域サロンとボランティア活動者・団体の需給調整</li> <li>新規サロンの設置</li> <li>地域サロン訪問</li> </ul> (予算額：10,837,000円)		地域サロン参加者の方々に「心豊かに暮らしにゆとりを届けたい」と「地域サロンと参加者のつながりづくり」という思いから、「素敵なまごころ便」を実施した。 第一弾では、詩人 里みちさんの詩や、ポストカード、市社協応援メッセージや地サロボランティアからの一言メッセージ等、62サロン1,883人の参加者に届けた。 第二弾では、安心と安全のまごころを届ける「まごころ便」に賛同していただいた企業からの寄附を155サロンに配布した。 また、第五弾では赤十字奉仕団とコラボし、地域サロンに参加される高齢者の方々に笑顔になっていただきたいと「炊き込みご飯」を46サロン971個作り、お渡しした。	高齢者の居場所づくりから早20年が経つサロンもあり、内容のマンネリ化やサロンボランティアの高齢化、サロン参加者の減少等、サロン活動の充実に向けて検討していく必要がある。 ・地域サロン活動でのアイテム作りの内容の充実や、今年度も「まごころ便」を実施して地域サロンを支援していく。 ・地域サロンのない町内会に対し、「地域サロンしませんか」のチラシを配布し、周知・啓発を図る。	社会福祉協議会

評価	新たに生じた課題や特に留意すべき状況の変化等
B	

第2次草津市協働のまちづくり推進計画の令和2年度の取組に係る評価および令和3年度の取組予定

推進項目	D. 人材育成事業の展開		
	目標【当該推進項目の推進による協働のまちづくり推進への効果等】	【R2の実施内容】	【R3以降の取組（予定）】
	地域の課題が複雑になる中で、各主体が互いの知恵を持ち寄り、工夫しながら地域課題の解決に取り組むことが重要です。各主体が連携し、協力していくためには、地域を支える人材の育成が重要となります。関心があっても参加する機会がない方や、仕事や子育て等で地域活動への参加が難しい方に対して、啓発やPR活動を行いながら市民活動や協働の場への機会を提供していくことで、まちづくり活動を行うきっかけづくりに取り組みます。施策のターゲットや情報発信方法を工夫することで、多くの方がまちづくりに関われる事業展開が期待されます。	コロナ禍の中、コロナにまつわる内容の講座を企画することで、多くの方に参加していただくことができました。	多くの方に参加していただくために、積極的な周知・啓発を行います。地域向けの研修をリモートで実施するなど、事業の内容だけでなく、より良い実施手法についても検討します。

実施項目		効果に対する評価			
人材育成講座の実施（まちづくり、環境、教養講座等）		3（計画通りの取組により、成果があった。）			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
団体運営や事業運営のスキルを身につける実務支援講座を実施した（全6回）。特に今年度は活動初心者向けの基礎的な内容にテーマ設定し、「ひとまちキラリ助成事業」とも連動しながら、新しい人材の発掘と育成に努めた。		コロナ禍で「リモートによるオンライン会議に関心があるがやり方がわからない」との声が多かったことから、緊急でZoom講座を企画したところ、参加希望者が多く、日程を追加して実施した。	実務支援講座はテーマや内容を特定することから、多様な範囲をカバーしにくい。	今年度は回数を増やす（4→8回）ことで対応。	新設されるキラリエサポーターへの周知と参加
令和2年度 実績	令和3年度 予定				
・人とまちの未来をつくるカレッジ (250千円)	・人とまちの未来をつくるカレッジ (343千円)				
・ ・	・ ・				
(決算額： 250 千円)	(予算額： 千円)				
				担当	
				コミュニティ事業団	

実施項目		効果に対する評価			
まちづくり協議会向け研修の実施		3（計画通りの取組により、成果があった。）			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
「まちづくり協議会 会計・税務・労務サポート業務」の一環として、まちづくり協議会を対象に専門家による各種研修会等を実施し、適正な組織運営のサポートに務めた。（社会保険算定基礎届・労働保険年度更新事務手続き等相談会／会計個別相談会／年末調整セミナー／決算セミナー）		法改正に対応する処理方法の変更なども研修内容に盛り込み、迅速かつ適切に対応できるよう工夫した。	各まち協の職員は人員に限りがある上に、ローテーション勤務などで職場を離れることが困難で、集合研修に参加しにくい状況がある。	リモート参加を検討実施	オンラインによる研修や相談対応の導入
令和2年度 実績	令和3年度 予定				
・会計・税務・労務等サポート業務 (8,344千円)	・会計・税務・労務等サポート業務 (8,354千円)				
・ ・	・ ・				
(決算額： 8,344 千円)	(予算額： 8,354 千円)				
				担当	
				コミュニティ事業団	

実施項目		効果に対する評価			
人材育成講座の実施（ボランティア、福祉教養大学等）		3（計画通りの取組により、成果があった。）			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
<p>・福祉教養大学 「心に訴え、誰もが聞いてみたい斬新なテーマ」の講座として、今まで福祉に興味がなかった市民に参加いただけるように、幅広い講師に講演いただき、地域の担い手不足と言われている現状を打破すべく、地域福祉活動者のすそ野を広げることを目的に、「福祉教養大学」を実施する。 また、卒業生を対象とした大学院を設立し、具体的活動へのカリキュラムを設定し、丁寧に地域の活躍の場へ草津市を愛する人材を送り届ける。</p> <p>・福祉委員設置促進 「福祉委員の手引き」を用いて、学区社協との協働による学習会等を開催することで、福祉委員活動が活発に行われるよう支援する。また、活動のヒントや自身のスキルアップの場として、草津市福祉教養大学の活用を促す。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
		<p>・福祉教養大学 幅広い講師に講演をいただくことで、今まで福祉に感心のなかった人にも受講してもらうことができた。また、コロナ禍での話題も交えながらの講座を開校できた。</p> <p>・福祉委員設置促進 福祉委員の研修会が行われる際には、地域に出向き、福祉委員の説明を行う等、活動の支援を行った。</p>	<p>・福祉教養大学 新型コロナウイルス感染症の影響もあるが、大学、大学院ともに受講者数が減っている。受講生の拡大に向けて、広報啓発等広く行っていく必要がある。</p> <p>・福祉委員設置促進 福祉委員の活動を支援している学区社協等との連携を密にし、より円滑に活動をしてもらえるように働きかけをしていく必要がある。</p>	<p>・福祉教養大学 多くの方に大学に受講してもらうために、広報啓発を広く進める。また、大学院については、卒業生のみを対象とするのではなく、今まで活躍してきた元学区社協活動者や元民生委員・児童委員等も対象とし、募集枠を拡大することでより多くの活動者の育成に取り組む。</p> <p>・福祉委員設置促進 福祉委員活動をより円滑にしていくために、学区を越えた交流を図り意見交換をすることで、今後の活動につなげてもらえるよう支援をする。</p>	<p>・福祉教養大学 大学受講生の定員を50人に設定しており、少しでも多くの市民に受講してもらえるように啓発する。 大学院は、元活動者からの受講生5人を目指す。</p> <p>・福祉委員設置促進 福祉委員の交流会を実施する。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定				
<p>・福祉教養大学（649,612円） 大学 入学式・第1講座（8/31）参加者：24人 第2講座（9/17）参加者：23人 第3講座（10/15）参加者：37人 第4講座（11/5）参加者：24人 第5講座（2/12）参加者：18人 卒業式・謝恩会（R3.3/12）参加者：26人 大学院 受講生 9人</p> <p>・福祉委員設置促進（1,000円） 市内福祉委員数 486人</p> <p>（決算額：650,612円）</p>	<p>・福祉教養大学（642,000円） ・福祉委員設置促進（115,000円）</p> <p>（予算額：757,000円）</p>				
				担当	
				社会福祉協議会	

実施項目		効果に対する評価			
ボランティアセンターの運営		3 (計画通りの取組により、成果があった。)			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
<p>コロナ禍で出来る事を考え、情報の共有を図りボランティアの拡大をめざす。ボランティアセンターの周知啓発に努め、他団体と連携しながら地域の困りごとの解決やフレイル予防、生きがいの発見につながるようボランティア10,000人を目指す。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	<p>○ボランティア連絡協議会加入団体の拡大を図る。</p> <p>○ボランティア保険加入促進加入者数の増加を図る。</p> <p>○収集ボランティア啓発ボランティア活動者の拡大を図る。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定	<p>○ボランティア連絡協議会加入促進 (70,000円)</p> <p>○収集ボランティア啓発 (41,000円)</p> <p>周知・啓発パネルの更新、チラシ・ポスターの配布</p> <p>(予算額：111,000円)</p>	<p>○ボランティア連絡協議会加入促進</p> <p>ボランティアセンター登録時や保険加入時に声かけを行った。</p> <p>○ボランティア保険加入促進</p> <p>社協くさつやホームページに掲載したり、ボランティア登録時に保険の加入について周知・啓発を行い、安心・安全なボランティア活動の促進を図った。</p> <p>○収集ボランティア啓発</p> <p>計量した収集物をデータ化し、社協くさつやホームページで周知・啓発を行った。</p>	<p>○ボランティア連絡協議会加入促進</p> <p>登録時に周知・啓発する。市社協と連携を深める。</p> <p>○ボランティア保険加入促進</p> <p>社協くさつやホームページで周知・啓発する。ボランティア活動者の育成・拡大を図る。</p> <p>○収集ボランティア啓発</p> <p>住民にとって身近で気軽にできるボランティア活動として、さらに広く周知・啓発していく必要がある。</p>	<p>令和3年度の目標</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入団体の拡大を図る。</p> <p>○ボランティア保険加入促進加入者数の増加を図る。</p> <p>○収集ボランティア啓発ボランティア活動者の拡大を図る。</p>
<p>・登録団体 355団体</p> <p>・登録人数 6,030人</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入促進 (70,000円)</p> <p>42グループ</p> <p>○ボランティア保険加入促進 (152,700円)</p> <p>基本プラン 3,216人</p> <p>天災プラン 567人</p> <p>・ボランティア行事用保険 120件</p> <p>・送迎サービス保険 2件</p> <p>・福祉サービス総合保障 11件</p> <p>○収集ボランティア啓発 (2,040円)</p> <p>&lt;収集実績&gt;</p> <p>・使用済切手148件 ・使用済みカード8件</p> <p>・書き損じはがき4件</p> <p>・ブルトップ170件179.1kg</p> <p>・ペットボトルキャップ347件1,769.2kg</p> <p>&lt;協力団体&gt;</p> <p>・幼・保子ども園5園</p> <p>・学校 (小学校5校、中学校3校、高校1校)</p> <p>・地域まちづくりセンター8ヶ所</p> <p>・まちづくり協議会3学区</p> <p>・企業14団体</p> <p>・地域サロン5サロン</p> <p>・市役所 (6部署)</p> <p>・その他13団体</p> <p>&lt;クラフトチラシの配布&gt;</p> <p>・配布数 180枚</p> <p>(決算額：224,740円)</p>	<p>令和3年度 予定</p> <p>(予算額：111,000円)</p>	<p>○ボランティア連絡協議会加入促進 (70,000円)</p> <p>○収集ボランティア啓発 (41,000円)</p> <p>周知・啓発パネルの更新、チラシ・ポスターの配布</p> <p>(予算額：111,000円)</p>	<p>○ボランティア連絡協議会加入促進</p> <p>ボランティアセンター登録時や保険加入時に声かけを行った。</p> <p>○ボランティア保険加入促進</p> <p>社協くさつやホームページに掲載したり、ボランティア登録時に保険の加入について周知・啓発を行い、安心・安全なボランティア活動の促進を図った。</p> <p>○収集ボランティア啓発</p> <p>計量した収集物をデータ化し、社協くさつやホームページで周知・啓発を行った。</p>	<p>今年度課題解決に向けて取り組むこと</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入促進</p> <p>登録時に周知・啓発する。市社協と連携を深める。</p> <p>○ボランティア保険加入促進</p> <p>社協くさつやホームページで周知・啓発する。ボランティア活動者の育成・拡大を図る。</p> <p>○収集ボランティア啓発</p> <p>住民にとって身近で気軽にできるボランティア活動として、さらに広く周知・啓発していく必要がある。</p>	<p>令和3年度の目標</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入団体の拡大を図る。</p> <p>○ボランティア保険加入促進加入者数の増加を図る。</p> <p>○収集ボランティア啓発ボランティア活動者の拡大を図る。</p>
担当					
社会福祉協議会					

実施項目		効果に対する評価		
医療福祉を考える会議を中心とする協議		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
<p>地域における包括的な支え合い活動を推進するため、多様な活動団体・事業者等が連携・協議し、様々な日常生活上の支援体制づくりを進めるとともに、高齢者の社会参加の推進を図る。</p> <p>特に事業推進の核である「医療福祉を考える会議」について、市内全学区で取り組めるよう、行政・地域包括支援センターと密に連携し、実施学区への継続支援および未実施学区への立ち上げ支援を行う。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
		<p>コロナ禍であっても、医療福祉を考える会議を開催できるよう三密を避けた方法を模索し、継続して会議を開催することができた。</p>	<p>医療福祉を考える会議を実施している学区に対し、地域の特徴を捉えながら継続して会議を開催できるよう支援していく必要がある。未実施の学区へは立ち上げへの働きかけをしていく必要がある。</p>	<p>会議を実施している学区に対し、地域の役員との連携を密にしながら、会議開催に向けた支援をしていく。</p> <p>未実施の学区へは、役員と開催に向けた協議の場を設ける。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定			
<p>・生活支援体制整備事業（医療福祉を考える会議等への支援）（20,736,459円） 生活支援コーディネーターの配置：14学区</p> <p>医療福祉を考える会議実施学区：13学区 （本会議：延べ21回 打ち合わせ等回数：延べ542回）</p> <p>（決算額：20,736,459円）</p>	<p>・生活支援体制整備事業（医療福祉を考える会議等への支援）（20,737,000円）</p> <p>（予算額：20,737,000円）</p>			
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
近所力アップ講座の実施		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
<p>地域に職員が出向き、より身近な福祉の専門職として、住民同士の日頃からのつながりの大切さを伝え、住民とともに地域福祉活動の大切さを語り合う。より市民が「聞きたい」と思えるような、市社協ならではの楽しい講座の周知啓発に努める。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
		<p>市民の「聞きたい」内容の講座を行うことで、住民同士のつながりや地域福祉活動の大切さを伝えることができた。</p>	<p>現状（コロナ禍）に沿ったテーマを講座に取り入れつつ、住民同士の日頃からのつながりの大切さを伝えていく必要がある。</p>	<p>コロナ禍だからこそできる講座内容を検討し、住民同士のつながりの大切さを伝えていく。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定			
<p>・2団体からの講座依頼（約48人の受講）（1,200円）</p> <p>（決算額：1,200円）</p>	<p>・市民が「聞きたい」内容の講座を実施（コロナ禍での社協活動について、ボランティアで生きがいづくり）（8,000円）</p> <p>（予算額：8,000円）</p>			
				担当
				社会福祉協議会

評価	新たに生じた課題や特に留意すべき状況の変化等
<b>B</b>	

第2次草津市協働のまちづくり推進計画の令和2年度の取組に係る評価および令和3年度の取組予定

推進項目	E. まちづくり活動支援・資金助成		
目標【当該推進項目の推進による協働のまちづくり推進への効果等】		【R2の実施内容】	【R3以降の取組（予定）】
協働のまちづくりを推進するためには、協働のまちづくりにおける各主体の自主的なまちづくりに関する支援を行うことが重要となります。費用対効果を検討しながら、市民活動がさらに活性化されるよう、質の高い支援を行うことが求められています。 市民ニーズに迅速かつ適切に対応できるよう、積極的な情報収集を行うとともに、支援策の企画力、行動力を持った人材の育成が求められています。 助成金制度やイベント備品貸与等、財政的・技術的な支援を継続的に行いながら、新たな市民活動の拠点を有効に活用し、活動機会の充実を図ります。		各主体が自身で運営していけるような環境の整備や機器の譲渡を行いました。コロナ禍の中事業の効果が低下しないよう、工夫しながら実施することができました。	5月にオープンしたキラリエ草津を有効に活用しながら、団体の活動を展開していけるように展開していきます。複合施設の強みを生かして各主体と連携できる事業を検討します。

実施項目		効果に対する評価			
市民公益活動団体への立ち上げ資金の助成		2（取組を行ったものの、思うほどの成果は得られなかった。）			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
助成制度の見直しを昨年度行い、立ち上げ支援とステップアップ支援の2部門による助成事業を開始した。特に立ち上げ支援では助成による資金サポートだけでなく、伴走型の多角的な支援に着手した。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
令和2年度 実績	令和3年度 予定	コロナ禍の影響で、「まちづくり活動助成」と「イキイキ活動賞」を同時募集とした。	コロナ禍により、多くの採択事業が提案どおりに実施できず、大幅な変更・中止・規模縮小を余儀なくされた。このため、いくつかの団体は助成金の一部返還に至った。	コロナに限らず、想定されるリスク等に対する対応や代替案について、採択時に団体と事前相談。リスクマネジメントについて協議しておく。	
・ひとまちキラリ事業 (1,340千円) （まちづくり活動助成／イキイキ活動賞）  （決算額：1,340千円）	・ひとまちキラリ事業 (1,638千円) （まちづくり活動助成／イキイキ活動賞）  （予算額：1,638千円）				助成事業15団体以上の提案 活動賞6団体以上の申請
					担当

実施項目		効果に対する評価			
まちづくり活動場所の提供		3（計画通りの取組により、成果があった。）			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
まちづくりセンター、文化ホール（クレア・アマカ）、ロクハ荘、ロクハ公園、草津コミュニティ支援センターなどの管理をしながら、まちづくりの活動場所を提供した。また、単に活動場所を提供するだけでなく、施設の運営協力や事業連携など、協働による取組みにも注力した。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
令和2年度 実績	令和3年度 予定	キラリエ草津のオープンを控え、まちづくりセンターは最終年となることから、利用団体と共にフィナーレを協働で盛り上げるとともに、キラリエ草津への円滑な移行に注力した。	キラリエ草津（5階 協働ひろば）の周知と有効活用。まちづくり団体の積極的な利用	協働ひろばの運営ルールや有効活用について、市等と創りながら、可能なものから実施。スペースを活用したまちづくり団体のチャレンジ事業の実施。	
・まちづくりセンター運営管理 (34,691千円) ・草津コミュニティ支援センター管理 (2,170千円) （決算額：36,861千円）	・まちづくりセンター運営管理 (2,659千円) ・草津コミュニティ支援センター管理 (2,556千円) ・キラリエ草津（協働ひろば） (0千円) （予算額：5,215千円）				協働ひろばを活用したチャレンジ事業の開催 3以上
					担当

実施項目		効果に対する評価		
活動に必要な機器の貸出		2 (取組を行ったものの、思うほどの成果は得られなかった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
まつりやイベントなど、コミュニティ醸成を目的とした催し事業で利用できる各種まちづくり機器の貸出事業を実施。また、環境緑化機器（公園事務所）・福祉器具（社協）や環境学習機材（市）など、関係機関が提供している、まちづくりに活用できる機器の情報をまとめ、HPにて一括して情報発信している。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	キラリエ草津への移転に伴い、まちづくり機器の保管場所が縮小することから、機器の整理を行い、一部の機器を町内会やまち協に譲渡。	まちづくり機器の保管場所の確保と安全な管理運営。	貸出す機器やルールが大幅に変更となったことから、利用団体の意見を参考にしながら見直していく。
・まちづくり機器貸出事業（543千円）	・まちづくり機器貸出事業（1,338千円）			
(決算額：543千円)	(予算額：1,338千円)			担当 コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価		
まちづくり協議会への支援（運営・会計・情報発信等）		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
希望する13学区のまちづくり協議会に対し、「会計・税務・労務等サポート業務」を実施。協議会の会計・税務・労務の日常業務に係る相談対応や情報ネットワーク環境の機能向上と保守管理を行うとともに、専門家（税理士・社労士）と顧問契約を締結し、研修会の実施や決算等のサポートを実施。HPサポート業務では、支援している11まち協のHPのスマート版を作成。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	・協議会からの会計・税務・労務に関する相談はデータベース化し、専用Q&Aサイトに蓄積。まち協自らが調べられる環境を構築している。	まち協に貸与している業務用PCが4年を経過し、性能劣化を起こしつつある。	まち協の意見も聞きながら、次年度以降の情報ネットワーク環境の構築について市と調整
・会計・税務・労務等サポート業務（8,344千円）【再掲】 ・情報ネットワーク保守（2,730千円） ・まち協HPサポート（177千円） (決算額：11,251千円)	・会計・税務・労務等サポート業務（8,354千円）【再掲】 ・情報ネットワーク保守（2,750千円） ・まち協HPサポート（383千円） (決算額：11,487千円)			
				担当 コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価		
市民活動への表彰		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
市域・地域における長年の地道な活動に“ありがとう”の気持ちを伝える表彰制度を行い、3団体に授賞。また、授賞団体には順次、FM番組に出演いただき、活動の広報にも努めた。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
令和2年度 実績	令和3年度 予定	授賞団体への副賞は市内企業・事業所からの寄付を充当し、まちづくり活動と企業の社会貢献・地域貢献をつなぐ工夫を行っている。	コロナ禍により、副賞の財源となる市内企業・事業所からの寄付が減少傾向にある。	移転するキラリエ草津では、商工会議所等も入居することから、市内企業・事業所との連携協力について検討実施。
・ひとまちキラリ事業（1,340千円） （まちづくり活動助成/イキイキ活動賞） ・ (決算額：1,340千円)【再掲】	・ひとまちキラリ事業（1,638千円） （まちづくり活動助成/イキイキ活動賞） ・ (予算額：1,638千円)【再掲】			
				担当 コミュニティ事業団

実施項目		効果に対する評価				
福祉活動団体への立ち上げおよび活動資金の助成（地域福祉、ボランティア、地域サロン等）		3（計画通りの取組により、成果があった。）				
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標		
高齢者の見守り活動の推進や、介護予防と自立を促進するため、地域サロンに対し活動費を助成する。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	一カ所でも多くの地域サロンが立ち上がるように支援していく。	
		令和2年度 実績	令和3年度 予定			担当
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域サロン助成金：158サロン（令和2年度新規サロン：5サロン）</li> </ul> （決算額：6,655,000円）		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域サロン助成金</li> </ul> （予算額：8,250,000円）	コロナ禍で活動が止まってしまった地域サロンもあり、市と協議し、活動の助成金を5段階と細かくして、活動回数が少なくても回数に応じた助成金を交付した。	コロナ禍で解散してしまった地域サロンもあり、継続した活動が展開できるように今後どのようにして支援していくのか検討していく必要がある。	地域サロンが設置されていない町内会に向けて周知・啓発チラシを配布する。	社会福祉協議会



実施項目		効果に対する評価			
ボランティアセンターの運営		3 (計画通りの取組により、成果があった。)			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
<p>コロナ禍で出来る事を考え、情報の共有を図りボランティアの拡大をめざす。ボランティアセンターの周知啓発に努め、他団体と連携しながら地域の困りごとの解決やフレイル予防、生きがいの発見につながるようボランティア10,000人を目指す。</p>		<p>工夫した点</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入促進 ボランティアセンター登録時や保険加入時に声かけを行った。 ○ボランティア保険加入促進 社協くさつやホームページに掲載したり、ボランティア登録時に保険の加入について周知・啓発を行い、安心・安全なボランティア活動の促進を図った。 ○収集ボランティア啓発 計量した収集物をデータ化し、社協くさつやホームページで周知・啓発を行った。</p>	<p>課題</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入促進 ボランティア連絡協議会の会員が、ボランティア活動者の高齢化により後継者不足について悩んでおり、活動の活性化を図る必要がある。 ○ボランティア保険加入促進 ボランティア活動者を拡大する必要がある。 ○収集ボランティア啓発 住民にとって身近で気軽にできるボランティア活動として、さらに広く周知・啓発していく必要がある。</p>	<p>今年度課題解決に向けて取り組むこと</p> <p>○ボランティア連絡協議会加入促進 登録時に周知・啓発する。市社協と連携を深める。 ○ボランティア保険加入促進 社協くさつやホームページで周知・啓発する。ボランティア活動者の育成・拡大を図る。 ○収集ボランティア啓発 住民にとって身近で気軽にできるボランティア活動としてさらに周知・啓発していくため、パネルの更新と広くチラシ・ポスターを配布する。 ○ボランティア活動団体の増加は、社会参加や生きがいづくり、新しいつながりづくりとなっていくことを多くの市民に周知・啓発を行う。</p>	<p>令和3年度の目標</p> <p>○ボランティア連絡協議会 加入団体の拡大を図る。 ○ボランティア保険加入促進 加入者数の増加を図る。 ○収集ボランティア啓発 ボランティア活動者の拡大を図る。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定			担当	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・登録団体 355団体</li> <li>・登録人数 6,030人</li> <li>○ボランティア連絡協議会加入促進 (70,000円)</li> <li>42グループ</li> <li>○ボランティア保険加入促進 (152,700円)</li> <li>基本プラン 3,216人</li> <li>天災プラン 567人</li> <li>・ボランティア行事用保険 120件</li> <li>・送迎サービス保険 2件</li> <li>・福祉サービス総合保障 11件</li> <li>○収集ボランティア啓発 (2,040円)</li> <li>&lt;収集実績&gt;</li> <li>・使用済切手148件 ・使用済みカード8件</li> <li>・書き損じはがき4件</li> <li>・プルトップ170件179.1kg</li> <li>・ペットボトルキャップ347件1,769.2kg</li> <li>&lt;協力団体&gt;</li> <li>・幼・保子ども園5園</li> <li>・学校 (小学校5校、中学校3校、高校1校)</li> <li>・地域まちづくりセンター8ヶ所</li> <li>・まちづくり協議会3学区</li> <li>・企業14団体</li> <li>・地域サロン5サロン</li> <li>・市役所 (6部署)</li> <li>・その他13団体</li> <li>&lt;クラフトチラシの配布&gt;</li> <li>・配布数 180枚</li> </ul> <p>(決算額 : 224,740円)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア連絡協議会加入促進 (70,000円)</li> <li>○収集ボランティア啓発 (41,000円)</li> <li>周知・啓発パネルの更新、チラシ・ポスターの配布</li> </ul> <p>(予算額 : 111,000円)</p>			社会福祉協議会	

実施項目		効果に対する評価				
福祉機器、福祉車両の貸出		3 (計画通りの取組により、成果があった。)				
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉車両の貸出</li> </ul> 家庭の事情や経済・身体的状況などにより病院などへの送迎が必要な方に対して福祉車両をかしだすことにより、登録いただいている送迎ボランティアに送迎を依頼し、安心・安定した生活を送ることができるよう支援する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉機器の貸出</li> </ul> 不要になった福祉用具（車いす）のリサイクル事業を実施し、3ヶ月を基準に最長6か月以内の期間で福祉用具を貸出し病气や怪我などで必要とされる方の便宜を図る。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと		
令和2年度 実績 ・福祉車両貸出 626,897円 送迎対応件数 192回 送迎依頼者数 10人 送迎ボランティア数 10人 ・福祉機器の貸出 143,000円 車いす貸出 164回 (決算額：769,897円)		令和3年度 予定 ・福祉車両貸出 1,430,000円 ・福祉機器の貸出 149,000円 (予算額：1,579,000円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉車両貸出</li> </ul> 車内の消毒や換気、マスクの常備などコロナウイルス感染症予防対策を行い、安心して乗車できるよう実施した。また、今年度より所得制限をはずし、利用者の拡大を図った。 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉機器の貸出</li> </ul> 車いすの点検をボランティアグループ「α工房くさつ」に依頼し、協力連携しながら貸出した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉車両貸出</li> </ul> 今後、利用者の増加が見込まれると考えられるため、送迎ボランティアの増員が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉機器の貸出</li> </ul> 事務所の移転に伴い、スムーズな貸出の実施が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉車両貸出</li> </ul> 社協くさつやホームページで送迎ボランティアを募集する他、窓口にボランティア活動に関する相談に来られた方に案内したり、各講座等で募集について周知・啓発する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉機器の貸出</li> </ul> 車いすを借りに来られる方にスムーズに借りていただけるよう、丁寧に案内する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉車両貸出</li> </ul> 送迎ボランティアの増員を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉機器の貸出</li> </ul> 利用に関して広く周知・啓発する。
				担当		
				社会福祉協議会		

実施項目		効果に対する評価				
地域支え合い運送支援事業		3 (計画通りの取組により、成果があった。)				
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標		
車両を無償貸与することで学区社協やまちづくり協議会が実施する移動困難者のボランティア送迎を支援し、住民が主体的に取り組む支え合い活動が広がるよう支援する。実施学区の活動が地域で安心して継続していくよう、安全運転講習会等の開催などによりサポートするほか、広く事業の周知・啓発を行い、現在未実施の学区でも活動につながるよう促していく。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと		
令和2年度 実績 ・令和2年度から南笠東学区で事業を開始。併せて5学区（老上学区・老上西学区合同）で実施。 (決算額：1,358,316円)		令和3年度 予定 ・地域支え合い運送支援 (予算額：749,000円)	令和2年度から南笠東学区で事業を実施するにあたり、地域の方やボランティアが今後の運用について検討する運営会議に参画し、支援を行った。	現在、14学区中5学区のみでの実施となっているため、より地域での支え合い活動、送迎支援が広がるよう、事業に関して周知・啓発等を進めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> <li>安心・安全な活動が継続できるよう、安全運転講習会等を開催する。</li> <li>未実施の学区に、事業に関して周知・啓発を行う。</li> </ul>	支え合い運送支援事業の周知・啓発を行う。
				担当		
				社会福祉協議会		

実施項目		効果に対する評価		
学区社会福祉協議会等福祉団体への支援		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
地域の支えあい活動を推進するため「福祉の土壌づくり」「活動の担い手づくり」「個別援助活動」「地域福祉関係者との交流」を進める学区社協を支援する。また、ボランティア団体や各種福祉団体等への事業に対して支援をする。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
		前年度に申請のあった団体に対し、申請を促しすることで、福祉団体等の活動支援を行うことができた。	コロナ禍という状況を踏まえ、事業の実施の内容や実施方法等を確認しながら、地域福祉活動への支援をしていく必要がある。	コロナ禍だからこそ必要な支援の在り方を考えていく。
令和2年度 実績		令和3年度 予定		令和3年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種福祉団体等への事業助成 (112,000円)</li> <li>ボランティア団体活動助成 (475,000円)</li> <li>地域福祉活動への助成 (6,345,000円)</li> </ul> (決算額 : 6,932,000円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>各種福祉団体等への事業助成 (402,000円)</li> <li>ボランティア団体活動助成 (600,000円)</li> <li>地域福祉活動への助成 (6,283,000円)</li> </ul> (予算額 : 7,285,000円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>より積極的に福祉団体への支援が行えるよう、声掛けを行っていく。</li> <li>「コロナでつながりを広げる補助金」(市社協財源)を実施し、コロナ禍であっても工夫して地域福祉活動が進められるように促し、活性化を図る。</li> </ul>
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
社会福祉功労者表彰		3 (計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
地域活動に貢献をされた個人・団体に対して表彰状を授与することで、やりがいや充実感を感じていただき、さらなる地域福祉の発展を推し進めるための、ひとつの集大成としての役割を担う。		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
		新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた会場体制で式典を実施し、コロナ禍であっても被表彰者に感謝の気持ちを伝えることができた。	推薦団体の固定化により、新たな視点からの被表彰者候補が少ないこと。	より多くの団体から推薦をいただく。
令和2年度 実績		令和3年度 予定		令和3年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年11月28日(土)実施</li> <li>64団体・個人に表彰状、感謝状を授与</li> </ul> (決算額 : 193,082円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年11月20日(土)実施予定</li> </ul> (予算額 : 273,000円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>より多くの団体から推薦をいただく。</li> </ul>
				担当
				社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
共同募金運動の推進		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
<p>地域活動を支援するための助成金として活用される共同募金運動を草津市全域で実施することで、より多くの方に「自分のまちをよくするしくみ」に参加いただき、募金を通じてまちづくりに参画いただく。 集めた募金を県共同募金会に送金したのち、草津市の募金額に応じて配分される「地域助成金」を通じて地域福祉活動への助成を行い、地域福祉活動の活性化につなげる。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと
		<p>募金の使い道(学区社協をはじめとする様々な地域活動への助成金等)を町内会を中心に広く周知を行った。</p>	<p>・助成団体が固定化されており、新たな地域活動への助成につながりにくい。 ・共同募金の減少により、地域活動への助成金が減少傾向となっている。</p>	<p>・県共募が実施するチャレンジ事業を活用し、新たな助成制度を立ち上げ、これまで助成を行ってきた団体だけではなく、より広く地域活動を行う団体の活動への助成を行っていく。 ・上記の助成制度をつくり、新たな団体とつながりをもつことで共同募金への関心を高めていただき、募金への関心や、地域活動への関心をより一層高めてもらう気運をつくっていく。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定			
<p>・一般募金実績 8,666,500円 (地域助成金として配分 3,772,156円)  (決算額: 8,666,500円)</p>	<p>・一般募金目標額 10,000,000円  (予算額: 10,000,000円)</p>			
				担当
				共同募金委員会 (社会福祉協議会)

評価	新たに生じた課題や特に留意すべき状況の変化等
C	

第2次草津市協働のまちづくり推進計画の令和2年度の取組に係る評価および令和3年度の取組予定

推進項目	F. 中間支援組織同士の連携協力		
	目標【当該推進項目の推進による協働のまちづくり推進への効果等】	【R2の実施内容】	【R3以降の取組（予定）】
	<p>協働のまちづくりの推進には、多様な分野で活動する団体をつなぐ総合的な支援体制が必要となります。そのためには、中間支援組織同士が連携することで、自らの機能を高めるとともに、ネットワークの強化が期待されます。市民総合交流センターがオープンし、市で指定する2つの中間支援組織が、同一の施設に入居したことから、これまで以上に連携し、団体間のコーディネートを行いながら、両組織それぞれに関係する団体がマッチングできる仕組みづくりが進むことが期待されます。</p> <p>2団体が、お互いの特徴を生かしながら、各種事業展開や情報発信を連携して行うことにより、相乗効果を発揮できるよう取り組みます。</p>	<p>コロナ禍の中、中止になった事業もあるが、コロナ禍における実践活動の場となる事業を企画し実施できました。</p>	<p>これまでの事業内容を見直しながら、事業を実施するとともに、ホームページをリニューアルすることで、わかりやすいまちづくり情報の発信を行います。</p>

実施項目		効果に対する評価			
まちづくりイベントの共同開催		3（計画通りの取組により、成果があった。）			
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標	
<p>中間支援組織連携として、草津市社協と草津市コミュニティ事業団、草津青年会議所の三者で「緑波祭」を令和元年に開催したところ、多くの市民の参加につながり、多様な団体に関わるためのきっかけづくりや、また、それぞれの団体同士の交流にもつながったが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止せざるを得なかった。しかし、草津市福祉教養大学大学院生の活動の第一歩として、「あなたのための音楽祭」を企画し、実施したことで、ボランティアフェスティバルの主旨であるボランティア活動者同士をはじめとした参加者のつながりづくりができた。</p>		工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	
		<p>コロナ禍における実践活動の場として、ボランティア活動の充実と住民参加のつながりをつくる場とした。</p>	<p>多くの市民を巻き込みでのボランティアフェスティバルの開催は難しいが、令和4年度については連携事業について検討する。</p>	<p>10回目のボランティアフェスティバルとしてはファイナルとし、過去に関わっていただいた方をお呼びし、交流会を実施予定。今後も応援してもらえよう、つながりを絶やさないように努める。</p>	<p>ボランティアフェスティバルでお世話になった方々に、しっかりと御礼を伝えることができる気持ちのこもった交流会となるような内容を検討する。</p>
令和2年度 実績	令和3年度 予定				
<p>・音楽ボランティアグループ6団体による演奏会 参加者：午前16組26人 午後5組12人  (決算額：192,793円)</p>	<p>・ボランティアフェスティバルファイナル交流会の実施  (予算額：315,000円)</p>				
				担当	
				コミュニティ事業団 社会福祉協議会	

実施項目		効果に対する評価		
指定管理施設での連携事業		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
平成27年度より、中間支援組織として位置づけされている草津市コミュニティ事業団とともに、ロクハ荘での「とく・得バスツアー」を実施してきたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした。 しかし、ロクハ荘との連携事業として、音楽機器である「フリーダム機器」でサロンへ出向く駆け付け講座やロクハ荘へ出かけるお出迎え講座のチラシを全サロンへ配布し、中間支援組織間の連携事業として広く周知・啓発した。	工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とく・得バスツアーとしては取り組み予定はないが、連携事業実施に向けて検討する。</li> <li>・中間支援組織との連携にとどまらず、キラリエ草津内での相談連絡会の実施を行う。</li> </ul>
	「フリーダム機器」のチラシを全サロンに配布し、広く周知・啓発した。	今年度は取り組み予定なしたが、令和4年度については、連携事業実施に向けて検討する。	今年度は取り組み予定はないが、令和4年度については、連携事業実施に向けて検討する。	
令和2年度 実績	令和3年度 予定			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「とく・得バスツアー」としては中止 (決算額：0円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「とく・得バスツアー」としては取り組み予定なし (予算額：0円)</li> </ul>			
				担当
				コミュニティ事業団 社会福祉協議会

実施項目		効果に対する評価		
ホームページを活用した各種貸出機器情報の共同発信		3(計画通りの取組により、成果があった。)		
当該事業の実施による協働のまちづくり推進への効果等		上記の状況・理由等		令和3年度の目標
市内の各種貸出機器情報がまとめて一目でわかるように、コミュニティ事業団と共同で「レンタルねっと☆くさつ」にて情報を発信する。	工夫した点	課題	今年度課題解決に向けて取り組むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページをリニューアルし、より見やすくアクセスしやすい環境づくりに努める。</li> </ul>
	市社協ホームページのトップ画面に「レンタルねっと☆くさつ」のバナーを掲示した。	貸出機器情報を求めてこられるアクセス者に、「レンタルねっと☆くさつ」ページにたどり着きやすいよう視覚的に工夫する必要がある。	アクセス者にとってより見やすく、該当ページにたどり着きやすいようにホームページをリニューアルする。	
令和2年度 実績	令和3年度 予定			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「レンタルねっと☆くさつ」の運営 (決算額：0円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「レンタルねっと☆くさつ」の運営 (予算額：0円)</li> </ul>			
				担当
				コミュニティ事業団 社会福祉協議会

評価	新たに生じた課題や特に留意すべき状況の変化等
B	